

洋書輸入協会会報

VOL. 23
NO. 2

(通巻262号) 1989年2月

理事会報告

1月18日(水)

(一) 株式会社栗田書店(関西支部正会員)の退会

同書店から3月31日を以て退会したいという届が出されていることが報告され、承認された。

(二) 消費税

すでに通関委員会、総務委員会、雑誌委員会で討論されていること、輸入郵便物については、通関委員会(栗原光輝氏——洋販)、総務委員会(松井幸雄氏——丸善)等が各方面と接触して情報の入手につとめたこと、などが報告され、諸情報を総合した結果、現段階では陳情書を提出することなく、事態を静観することとなった。

本日の懇談会に百名をこえる出席者があることは、会員が消費税問題にいかに大きな関心をもっているかを反映しているので、理事会としては一致してこの問題に対処していくことを確認した。

顧客との関係を含む今後の対策については、次のように決定した。

- 1 理事会内に消費税に関する特別委員会をおく。
- 2 公正取引委員会へ届出のうえ、転嫁および表示方法についてのカルテルを結成する。
- 3 JBIAとしてPRにつとめる。

懇談会報告

消費税についてのJBIA懇談会は1月18日(水)午後3時から学士会館分館で開催された。出席者は百二十余名に及ぶ盛会であった。

まず松井幸雄氏(丸善)が会の進め方について説明し、ついで小林英一理事長代理(丸善)が挨拶に立ち、本日百二十余名の出席者があることを念頭において理事会として対処していく決意を述べ、二月末か三月始めには臨時総会が必要となろうという見通しを語った。

第一の問題であるいわゆる「水際課税」については栗原光輝氏(洋販)がこれまでの経過と見通しにつき報告したのち質疑にはいった。第二の問題である転嫁については小林理事長代理が報告し、法に従って臨時総会をひらいてカルテル結成の承認を得たい旨を報告し、特別委員会の構成については理事会に一任することを求めた。質疑を終ったのち、丹羽正之氏(緑書房)が事後通関制に関連して、輸入諸手続きの厳守を要請した。

さいごに小林理事長代理が閉会の挨拶をおこない、JBIAとしてPRのための宣伝物を作製する旨を表明し、午後4時30分閉会した。

午後5時からは同一会場でパーティーがひらかれた。まず山川隆雄氏(ユサコ)が乾盃の音頭をとって、JBIA

理事会報告..... 1	洋書輸入協会史(39)..... 3	総代理店ご案内..... 5
お知らせ..... 2	お知らせ..... 5	
Book Review No.125 2	書物にかかわる歌〈その13〉..... 5	広 告..... 6

および個々の会員の1989年における発展を祝ったのち、談笑にはいった。多数の参加者が会場にあふれんばかりの盛況で、名刺が交換され年頭の挨拶がかわされ、和気藹々のうちに時が経過していった。

お知らせ

◆日本書籍貿易株式会社は事務所を下記の通りに移転した。(但し旧所在地から徒歩1分のところの由)

〒564 大阪府吹田市江坂町2-12-6

(電話・FAXは従来通り)

BOOK Review No. 125

梅棹忠夫編「私の知的生産技術」

(岩波新書 別冊3)

1988年11月 iii、216 pp. ¥480

この本の編者による「知的生産の技術」(岩波新書)が出版されたのは1969年のことで、当時は珍しい言葉だと思われたこの新しい造語も、20年後のいまは定着しているように思われる。われわれの仕事は本来は知的流通とでもいうのかもしれないが、顧客への情報サービスが重さをましてきているこんにち、知的生産といわれる分野も含まれていると考えるべきであろう。情報の収集、分類、整理、そして生産という過程がわれわれの業務に含まれるからである。

岩波新書創刊50年を記念した募集論文の入選作十二篇に編者のエッセイを付したのが、この本である。応募原稿は二百数十篇あったという。そのなかの十二篇であるから、何れもなかなかの力作で、読む者の感動をさそうものも少なくない。

ひとつひとつを紹介する煩はさけるが、編者もいうように、コピー機械の発達とワープロ、パソコンの出現は、さいきんの大きな変化であり、大部分の作品にこれらのものがでてくる。昔の文房四宝(筆、墨、硯、紙)が、いまはワープロ、複写機、パソコン、ファックスに変わった、というひとつもある。技術革新のはげしい時代だけに、知的生産に関連する機器はこんごも目ざましい発達をとげるだろう。

本の利用についても各人各様である。山村住まいで公共図書館を利用できず、書店で立読みもできないひとりの作者は「なぜこんなに本を買い込むかといえば、自分のオリジナリティーの確認のために過ぎない」と

いっている。「興味ある記事が載る確率の高い雑誌をリストアップしておき、毎月、書店店頭でチェックする。この場合も、本当に価値ある時だけ買って帰る」ひともある。「五十メートル西には本屋が二軒並んでいる。……疑問が生じたときには、すぐそこへ駆け込む。辞書や事典類は言うに及ばず、時には「文献」さえ閲覧できる。……この二軒の本屋は「書斎」に設けた「私設図書館」であり、蔵書の数はおよそ二万五千冊。」和書屋さんは何というだろうか。

「オリジナリティー」と「バイタリティー」を強調しているひともあるが、それぞれのひとがじぶんのオリジナリティーを工夫していることがよくわかるし、また長期にわたって独創性のある知的作業をつづけるのにはバイタリティーがなければならないであろう。

「独自の学習法」を紹介する大学教授あり、ワゴン車を走る第二研究室としている山村研究者あり、ハイテク機器を駆使して「自分史」と「身のまわりについてのノンフィクション」を書くために情報を集めている自営業者あり、「研究開発に当っては、盲人ユーザーのことも考慮に入れてほしい。……企業の社会的責任を自覚して取り組んで欲しい」とうったえる盲学校教員あり、合理化で職場を追われ、夫婦で看板店をひらいたひとあり、等々一篇一篇が興味をひく。岩波新書五十周年では、もう一冊、加藤周一編「私の昭和史」(別冊2)もでている。ともにおすすめしたい本である。(M. I.)

45 同業会に専任事務員を置き、専用事務所を設置することについての提案

昭和29（1954）年5月28日の同業会定時総会時に、頭記の件が一部会員によって提案された。これまでの現状では、同業会の事務はすべて丸善の田辺氏と小沢氏その他によって処理され、従って事務所も丸善内に置かれていた。そのためにこの丸善によりかかっている姿勢を正し、同業会事務所は丸善から独立すべきだという議論が出てきたのである。ところが、実際問題としてはこの提案は大きな経費を伴うため、理想としては会員の支持を受けつつも実行の目処が立たず、この場では審議未了となった。そして検討のための時間を置いた上で改めて臨時総会を開いて再審議をしようということになっている。

同年10月15日、この問題の再審議のための臨時総会が開かれた。その模様は10月16日付の海輸第81号により会員に通知されている。それによると、専用事務所は経費がかかりすぎて問題とならず、事務員については、会費を12月より500円（従来300円）に値上げし、同月より月額8,000円を補助事務員人件費として予算に計上することとなっている。

ところが、実際には担保金引下げ問題、これに続く盗版の問題などで理事達が東奔西走する日々が連続し、そのための経費増に予算が食われ、補助事務員を採用する余裕がなくなっている。従って同業会事務は従来通り丸善の両氏で大部分が処理され、特に繁忙のときのみアルバイトをもって賄う状態が、この後も続いていった次第である。

昭和29年の3月末現在の同業会のメンバーは僅か41社、月額300円の会費を1.66倍の500円に大幅値上げをしてみたところで、会費収入は月額20,500円、これでは何ともやりようがない訳である。これというのも、海外出版物輸入同業会として、収入を計ることが出来るような事業が何もないというところに、他の業種の同業会と基本的に異なる事情が存在していた。

この同業会の内情は、業界のシェアの80%に近いものを丸善が占めていた戦前に同業会が発足し、戦後も当分の間は丸善が60%のシェアを持っていたことと無縁

ではない。であればこそ、同業会の中から、丸善への依存状態を脱却しようという主張がこの後も繰り返し提案され、経費という現実問題にぶつかっては繰り返し延べとなる状態が続いている。そして昭和30年代の神武・岩戸景氣、大学新增設ブームなどの間に既存各社に多少の力がつき、新規メンバーも海外出版社の日本代表も増え、会員数が60社を越えた昭和42年に至って、始めて事務所を独立させ、専従者を置くことが出来たのである。

46 海賊版（盗版）問題（第一次）

46.1 海賊版概観

外国の図書を著作権者に無断で複製した出版物を海賊版といい、これは a pirated edition の翻訳語である。日本には昔から偽版という言葉があり、これは偽作の版本またはその印刷物を指すもので、にせはんともいう。福沢諭吉は「学問のすゝめ」を始めとするベスト・セラーものの著者であるが、偽版に悩まされ、明治6年に偽版の害を指摘して嚴重にこれを禁止するよう、文部省に建白書を提出している。丸善百年史下巻に第五章の一として、「洋書偽版（海賊版）禁止の運動」と題され、昭和29～33年の頃を記述した項があるが、ここで偽版という言葉が使われているのも、福沢諭吉先生以来の伝統であろう。

日本は明治32年（1899）制定の著作権法で、それまで外国著作物を翻訳することは全く自由であったものを、このとき初めて外国著作者の権利を保護する規定を設けた。このときの著作権法は、ベルヌ条約加盟の準備工作として立案されたもので、水野鍊太郎博士の起草にかかっているものである。ベルヌ条約に加盟する以上、内外人平等主義をとらざるをえなかったのである（半田正夫著「著作権法の研究」より）。

この頃の日本は、一方的に欧米文化を輸入している立場にあり、外国人の著作権保護は不利益そのものであるといわざるを得なかった。しかし当時は不平等条約の改正が明治維新以来の悲願となっており、その前提条件としての国内法の欧米並みの整備を、何としてでも推進せざるを得なかった事情が背後にある。なおこの時のベル

ヌ条約には、ロシアや中国（台湾を含む）は加盟していない。

46.2 海賊版、無断翻刻版小史

戦前は、上海がその中心地で、上海版という名のもとにバイルシュタインを始め相当沢山のものが無断翻刻されている。もっとも中国は著作権条約に加盟していないので、日本の場合と事情を異にしているであろうが。

日本では、昭和16年(1941)の4月に、丸善が McGraw-Hill 社の Marks: Mechanical Engineering Handbook の海賊版を摘発している(洋書輸入協会会報、Vol. 4 No. 2、昭和45年2月号所載、「八木佐吉：洋書こぼれ話」より)。

戦後は、香港版が先ず有名になったが、やがて東京版が横行し、米国の Publishers Weekly などでも取り上げられるようになる。この東京版の横行の理由とその時期は、次のようなものであろう。

- (1) 太平洋戦争を挟んで、前後10年に及ぶ洋書輸入の途絶による洋書の不足。
- (2) 戦争中に、戦争ということで洋書の無断複製を行い、味をしめたグループが人脈として残存していた。
- (3) 戦後といっても、すぐには紙と印刷事情が悪化していたので海賊版も出来なかったが、昭和26、27年頃からはこれを作る余裕も出てきた。また写真製版の技術も進んできた。
- (4) 一方でこの頃から海外の新刊洋書が輸入され始め、海賊版のタネ本が入手出来るようになった。このあたりから東京版が始まる。
- (5) 戦後の窮乏は洋書の需要層も窮乏させ、\$…360円時代の洋書価格は、和書と比較して割高感というよりも高価格とされていた。
- (6) 日本人全体に未だ権利の観念が薄く、海賊版を作る側にも買う側にも著作権への関心が乏しかった。

戦後の日本における最初海賊版は、米軍占領下の時代に、マイクロフィルムの形で少量が流布していた形跡がある。しかし、本格的に目立つ行動を起し、海外出版物輸入同業会の問題となったのは、昭和29～30年のことである。

46.3 海賊版問題発生経過

丸善百年史下巻、1,310ページによれば、今回の海賊版

は、先ず文京区森川町所在の技術資料刊行会(責任者、中村梧一郎)が McGraw-Hill 社と Interscience 社のタイトルの無断複製を計画、中途その計画を放棄すると約したのであるが、その裏面で新宿区西大久保1-462所在の株式会社文献社(代表取締役 山本進)を通じて秘密裡に販売し、その企画が相当大規模であることも明らかになったとある。

その後の経過は、昭和30年6月に同業会において作製した著作権協議会仲裁委員会宛の申立書に詳しい。即ち、文献社は昭和29年9月頃「翻刻版予約募集」の目録を各方面に配布した。この目録を同業会理事会が入手、不審に思って記載されていた米、英国書籍7点の出版社である Wiley, Reinhold, McGraw-Hill, Pitman などの各社に対し、10月1日付で「これらの書籍の翻刻の権利を文献社に譲渡したものかどうか」を照会したところ、いずれも「同権利の譲渡ないし許可を与えた事実はない」という回答があった。また同時に同業会の理事会が無断翻刻版の出版を阻止するよう依頼されている。

その後同業会としては、文献社の動向につき注目していたところ、同社の無断翻刻の数は月と共に増加し、特に需要の多い理工学関係の米国出版書をねらい撃ちにしていた。判明しただけでも21点、被害を蒙っている出版社が8社に及ぶ有様であった。特に昭和29年の年末に予約募集を発表した Interscience 社発行の Encyclopedia of Chemical Technology. 14巻(1巻lack)の盗版は、同書が世界的に有名であること、大部であることで米国出版界に衝撃を及ぼしている。

ここに至って出版社側より、同業会の理事社に対し、「不正な方法による出版の阻止のために、法律的手段に訴えて貰いたい。そのための提訴については、全権を委任したい。」旨の申入れが行われたという経過をたどっている。

46.4 著作権協議会に調停あつ旋方依頼

昭和30年(1955)4月12日、同業会は理事会及び緊急懇談会を開き、同業会としては、上記の経過に依って盗版の横行を黙視することが出来ないとして、盗版の版元を告訴することを含むあらゆる処置をとることを決定した。

次いで種種検討を重ね、5月25日の同業会総会においては、「文献社発行の盗版は当会会員は一切取扱わないことを、全員一致をもって決議」している。更に6月15日の理事会において、告訴の手段に出る前に、著作権協議会仲裁委員会に調停あっ旋を依頼してみようということとなり、その申立書を作製した。

この申立書は、依頼者が米国 Interscience 社の M. Dekker 社長、Wiley 社の Hamilton 社長であり、その代理人として同業会理事長の丸善司 忠氏、理事の福本書院福本初太郎氏、同じく紀伊國屋書店の竹内 博氏、同じく國際書房の服部正喬氏、同じく教文館の山内種秀氏が名前を連ねている。

相手方は文献社の代表取締役 山本 進である。

申立の要旨として、前述の経過を記した後、依頼者は代理人に対し、

- (イ) 國際信用を著しく阻害しつつある著作権侵害行為を停止せしめるため
- (ロ) 公正に海外出版物の輸入に従事しつつある業者の、これによって受ける損害を防止するため

かかる不正な方法による出版の阻止方につき法律的手段に訴えられたい旨の申し入れがなされ、代理人はこの阻止に努力することとして依頼人の委任状を受領している旨が書かれている。

そして末尾に「代理人等は、その停止を目的とするものにして、相手方との隔意なき話し合い等によりこの目的を達し得れば甚だ幸いと、ここに貴会の解決御斡旋（調停）を御願い致す次第であります。」と記されている。

更にこの申立書には、昭和29年11月以来の依頼人両社の文献社に対する抗議文とその回答書、文献社の予約募集のリスト、盗版の現物など、必要とする証拠書類、証拠品が洩れなく添附されている。（続く）

お知らせ

◆ハーパー・アンド・ロウ出版社東京事務所、ニューベリー ハウス パブリシャーズ インターナショナル インコーポレイテッドの代表者が、次の通り交替した。

代表 ロナルド・スレスキー（新任）

〃 藤本 静夫（退任）

書物にかかわる歌〈その13〉

仙花紙の本幾冊を抛りどとし戦後つたなく歩みいでしか

三国 玲子

鹿兒島寿藏門下、アララギ派の女流歌人であった作者の第4歌集「蓮歩」昭和53年刊に所載。

戦後22年疎開先の弘前から帰京した際に〈働きて更に学ばむ鋭心にて吾は帰り来つ東京に来つ〉と処女歌集「空を指す枝」の中で若々しく歌っているが、当時はすべてが欠乏した飢餓と混乱の世相ではあったが、反面なにか不思議な開放感の漂う時代でもあった。たまたま岩波書店などで新刊が出るというニュースが伝わると、たちまち書店の前に列が出来るという現在では信じられないような現象も見られたのである。

こうした時代の、読書遍歴のスタートラインを回顧したこの歌は、後句の「つたなく歩み出でしか」に深い思いが込められているようだ。

〈冷え徹るあした旅宿に目ざめつつ書物に飢ゑし若き日は顕つ〉が上掲の歌に続いている。

硬質の抒情と知的な作風によって、現代短歌女流賞を受けるなど着実に中堅歌人としての地歩を固めつつあった作者は、62年夏惜しくも高層の病舎から身を投じて自死した。本の編集者であった頃の作に〈本一冊編み終えたりし充足も醒めつつ夜半の桜を仰ぐ〉がある。

A. A.

総代理店ご案内

（株）紀伊國屋書屋

☎(03)354-0131

IPI —UK—

The BRITS Index

1989 : 01 3 vols. ¥134,300

OCLC Forest Press —US—

Dewey Decimal Classification and Relative Index.

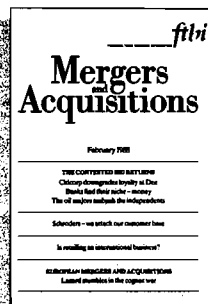
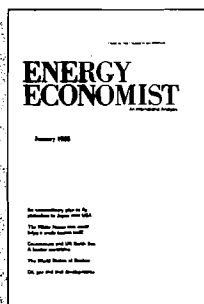
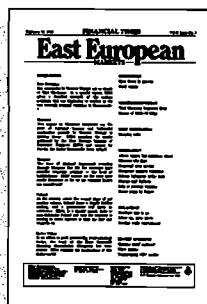
Edition 20. 1989 : 02 4 vols. ¥57,000

O U P NY —US—

International Encyclopedia of Communications.

1989 : 02 4 vols. ¥70,000

FINANCIAL TIMES NEWSLETTERS



世界の最新 政治・経済情報
産業別情報
地域別情報 を早く確実にお届けします

フィナンシャル タイムズ ニュースレター

FINANCE

	配本	定価
Business Law Brief.....	M	91,100円
Euromarket Letter & Report.....	W	280,500円
Financial Regulation Report.....	M	120,700円
International Banking Report.....	M	124,100円
Screen Finance.....	TM	112,200円
World Accounting Report.....	M	91,100円
World Tax Report.....	M	91,100円

MERGERS AND ACQUISITIONS

Mergers and Acquisitions.....	M	96,600円
-------------------------------	---	---------

FINTECH

FinTech 1: Telecom Markets.....	TM	117,000円
" 2 Electronic Office.....	TM	117,000円
" 3 Personal Computer Markets.....	TM	117,000円
" 4 Automated Factory.....	TM	117,000円
" 5 Software Markets.....	TM	117,000円
" 6 Computer Product Update.....	TM	117,000円
" 7 Mobile Communications.....	TM	117,000円

COMMODITIES

Pharmaceutical Business News.....	TM	98,600円
World Commodity Report.....	TM	147,900円

ENERGY

	配本	定価
Energy Economist.....	M	98,300円
European Energy Report.....	TM	124,100円
International Coal Report.....	TM	168,000円
International Gas Report.....	TM	130,600円
North Sea Letter and European Offshore News.....	W	166,300円
Oil Market Report (IEA).....	M	105,800円
Power in Europe.....	TM	175,100円
Power in Asia.....	TM	175,100円

INTERNATIONAL MARKETS

East European Markets.....	TM	130,600円
International Trade Finance.....	TM	130,600円
Latin American Markets.....	TM	130,600円
Mideast Markets.....	TM	148,200円
New Media Markets.....	TM	135,000円

INSURANCE

World Insurance Report (1 & 2).....	TM	147,900円
" 1.....	TM	98,600円
" 2.....	TM	98,600円
World Loss Report.....	TM	98,600円
World Policy Checklist.....	M	(予備) 54,400円
World Policy Guide.....	M	107,100円

* 配本方法 W(週刊)・TM(月2回)・M(月刊)。

* 各号の配本は英国よりAIR-SPEEDED DELIVERYで行なわれます。

出版元: FINANCIAL TIMES BUSINESS INFORMATION (FTBI), NEWSLETTERS DIVISION.

お問合せ・カタログご請求は.....

日本総代理店 (株)トッパン 〒101 東京都千代田区神田駿河台1-6 お茶の水スクエアB館
TEL.03-295-3461/FAX.03-293-5963

1989年2月 通巻第262号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎271-6901 FAX.271-6920
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329